

平成 28 年度離島漁業再生支援交付金による取組概要（大入島）

1. 集落の状況及び集落協定の概要

都道府県名：大分県

市町村名：佐伯市

島名：大入島

協定締結集落名：大入島漁業集落

交付金額：8,160千円

(1) 基本交付金：8,160千円

(2) 新規就業者特別対策交付金：0千円

協定参加世帯数：60世帯、74人（うち漁業世帯数60世帯、74人）

都道府県の都市部の勤労者世帯の有業者一人当りの平均勤め先収入 3,520,944円

集落の平均漁業者所得 1,877,028円（平成27年）

2. 協定締結の経緯

漁業が基幹産業である大入島においては、漁船漁業や養殖業等様々な漁業種類が営まれている。しかしながら、近年、漁業者の減少や高齢化が進んでおり、このまま推移すれば島の漁業は一層衰退し、集落の担う多面的機能が失われていく懸念がある。

そこで、漁業の基盤となる漁場の保全や利用に関する話し合いを通じて集落機能を再編し、漁場の合理的な利用や新技術・漁法の導入等に取り組む環境を整えるとともに、漁場環境の保全活動を継続的に実施することで漁業の再生を図るため、離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

赤潮調査等により漁場の維持管理に努めた。

活動内容	実施日	数量	経費（円）
漁場の維持・管理			
赤潮調査	5月20日～9月14日	6回	90,000
底質改良材の散布	12月8日～1月18日	底質改良材 (クリアウォーター) 5,100kg	1,063,044
ヒトデ類の駆除	11月7日～11月17日	参加漁船数 8隻	377,230

種苗放流等により資源の維持、増大を図った。

活動内容		放流数	サイズ (mm)	経費 (円)
種苗放流	アワビ	5,625個	31.6	486,108
	サザエ	15,000個	21.2	626,196
	カサゴ	6,269尾	70.1	541,108
	アカウニ	20,140個	13.1	261,108
	トコブシ	15,000個	21.5	626,196
			計	2,540,716

海底耕耘等により産卵場・育成場の整備を図った。

活動内容	実施日	数量	経費 (円)
海底耕耘	7月6日～7月9日	参加漁船数 40隻	2,061,156
貝殻魚礁設置	10月14日、1月25日	設置数 24基	808,840

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

ハモの活かし箱出荷を引き続き実施（九州、関西）

また、販路拡大PR用のリーフレットを作成した。

4. 取組の成果

①養殖漁場の水質・底質の改善を図ることを目的として、底質改良剤の散布をおこなった。これにより、赤潮の抑制等、漁場の環境改善効果があるのではないかと考えられている。また、赤潮被害を最小限に抑えるため、赤潮調査を実施し漁業者へ注意を促した。

その他、サザエ、トコブシの放流種苗の食害を防ぐため、ヒトデ類の駆除を実施し、漁場の維持・管理に努めた。



クリアウォーター散布 (H28. 12. 8)



赤潮調査 (年6回実施)

②種苗放流においては、アワビ等商品価値が高くかつ定着性の魚種を放流したことにより、数年後の水揚金額の増大が期待されている。また、サザエ、アカウニ、カサゴの種苗を放流することにより水産資源回復に期待をしている。



メガイアワビ種苗放流 (H28. 5. 17) ヒトデ類駆除 (H28. 11. 7)



サザエ種苗放流 (H28. 12. 14)



カサゴ種苗放流 (H28. 6. 24)



トコブシ種苗放流 (H28. 12. 14)



アカウニ種苗放流 (H28. 5. 17)

③海底耕耘を実施することにより、硬化しつつあった底質が軟化し、漁場環境の改善を図ることができた。これにより、魚介類等の幼稚仔の生息域の拡大、特にクルマエビの漁獲量増大が期待されている。また、貝殻魚礁を設置したことで、藻場造成や磯根資源の増産に期待をしている。



小型曳網漁船による海底耕耘 (H28. 7. 6)



貝殻魚礁の設置 (H29. 1. 25)

④活かし箱等を活用したハモの流通改善に取り組むことにより、活ハモの付加価値向上を図ることができた。また、大入島の水産物をPRする目的でリーフレットを作成した。



活かし箱による出荷



リーフレット作成